

第7回「プリントコミュニケーションひろば」によせて

立教大学文学部教授 富安 敬二

プリコミは、全国の学校で、日頃、通信を作り、頑張っておられる先生のコミュニティの場を提供するべく企画されました。ふつう学級通信や学校便りなどは、他の学校はもとより、他の地域などではめったに見ることはありません。また通信のためのテキストやガイドなどはほとんどなく、教師は自分なりの工夫で作成しているのが実情です。

しかし、その通信は、情報伝達手段として、的確で正確な内容であるか、適正で効果的な分量であるか、視覚的な配慮が十分なされているかなど、本来は備わっているべきものが、ともすれば教師の独りよがりになっているかもしれません。第5回までプリコミは、その意味で、クオリティの高い作品をなるべく採り上げようとしてきました。しかし、当然ではありますが、通信には各地域、各学校、各学級における文化の違い、また児童や生徒との固有の関係性など、外部からはうかがいしれないことも多くあります。

そこで、第6回からは、プリコミの後に続く言葉を、「コンクール」ではなく、「ひろば」と替えることによって、方針の変更を打ち出しました。全国の先生が自分なりの工夫で作られた通信の種類と量は膨大なもので、そのリソースをストックし、できるだけ多くの作品(通信)を紹介することが、これからの使命だと思っております。

そのため、個人が特定できる文章の表記や、写真など、個人情報には最大限配慮いたしますので、できるだけ多くの参加を期待するものであります。今まで通り、秀でた作品を紹介しつつも、特色のあるもの、ユニークなもの、工夫のあるもの、継続性の高いものなどを随時採り上げますので、ご自身だけでなく、同僚や若手、あるいは管理職の先生にも声をかけていただき、この場を全国の先生の、通信(作品)の広場としてご活用ください。採用作品には、今まで同様、すべてにコメントをお付けいたします。

第6回「プリントコミュニケーションひろば」 最優秀賞は「校報おやけ」が受賞。

「第6回プリントコミュニケーションひろば」の応募総数は473点でした。

厳正な審査の結果、最優秀賞(理想教育財団賞)をはじめ、
部門別優秀賞7点、部門別優良賞6点、ひろば賞8点、新人賞5点、佳作33点が、
また応募した学校単位を対象とする学校奨励賞に4校が選ばれました。



最優秀賞「校報おやけ」の表彰式で。受賞者・田中一典兵庫県たつの市立小宅小学校校長(中央)と審査員・富安敬二立教大学教授(右)。左は酒井純司理想教育財団専務理事。



小宅小学校で田中校長、PTA役員の皆さんと通信の役割を話し合う富安教授。